

おわりに

地球温暖化は、地域で目の前の課題を抱えているところにとって、やや距離のあるように見えるテーマ設定だったかもしれませんが、菅総理の所信表明演説を受けて、私はちょうど今日の午前中にこの場から、グリーンイノベーションという 2050 年に向けてどのような技術を開発していくかという会議にオンラインで出席しておりました。先端技術の中で、原子力というのは、CO₂を出さないという意味で、温暖化対策としては一定の意味を持つものでしたが、未来のエネルギーをどう考えていくのか、日本としてどのようにしていくのか、今、大変重い課題を突き付けられているところです。

地球温暖化問題が大きな世界的な共通認識になったのは、1990 年頃で、そこから今まで約 30 年です。2050 年まであと 30 年しかないですが、日本の CO₂ 排出量は、30 年間ほとんど変わっておりません。これをここから 30 年かけて、ゼロにまでもっていくというのは、大変な道のりです。そういった非常に困難なことに対して、社会としてチャレンジしていかなければならない。一方で、多くの方がおっしゃっているように、福島をこれからどのように未来に向けて作っていくのかというチャレンジもございます。温暖化は、そういう意味では決して向かい風ではなく追い風として、地球温暖化に立ち向かう解決策をどう得ていくのかということと、この福島の復興という問題を、ぜひ両立させていきたい。震災原発事故から我々は多くのことを学んだ訳ですが、その教訓というのは、私自身、学んだ者というか体験した者でないと分からないものがたくさんあると思います。福島の方々は、そういう意味で、将来に活かしていきたいということも多く持っているのではないかと思いますし、そういう意味では困難な問題の解決の力というのが、ここから湧いてくるのではないかと今日改めて感じました。

(シンポジウム 主催 (国立研究開発法人国立環境研究所)
による閉会挨拶より)

Ⅶ アンケート結果

シンポジウムの終了後、出席者の皆さんにアンケートをお願いしました。
その結果（抜粋）を以下に示します。

Q.もっとも興味深かったプログラムと、その理由（一部抜粋）

【基調講演】

- 世界の環境問題に対する意識と日本の意識の差を感じ、環境問題への取り組みを加速し、市民一人ひとりの意識をたかめないといけないと感じた。
- 浜通りでどのように取り組まれるのかを知りたかった
- 地球温暖化対策の取り組みの、根本的な意義について改めて知る良い機会となったこと。

【基調報告（環境省これまでの取組）】

- 中間貯蔵についてや環境への取り組みが理解できたため
- 大熊町・浪江町のゼロカーボンシティ宣言などの環境省支援の説明があったから。
- 環境省が日本のエネルギー政策のイニシアチブをとるべきで、まだまだ環境省の力不足を感じています。経産省の脱炭素・原発推進を脱炭素・脱原発に舵を切らせるべく、もっと発言力をつけるよう期待します。

【基調報告（国立環境研究所福島支部の取組）】

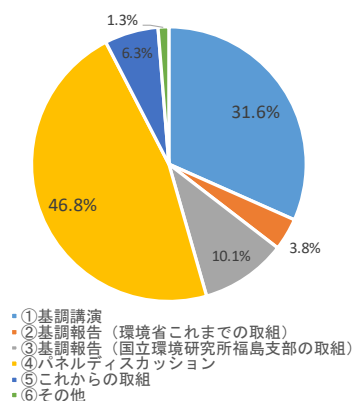
- 台風の後の廃棄物調査や生態系調査など重要な報告があった。
- 辻先生の、除染・福島復興に係るご説明が興味深かった。

【パネルディスカッション】

- 福島の再生だけでなく、地球温暖化といった世界的な問題に対して寄与されているパネリストの方々の意見が特に興味深かったです。
- 非常に面白いやりとりがなされており、時間が足りない気がしました。
- 現在、いろいろな取り組みをされている方の生の声を聴けたから。

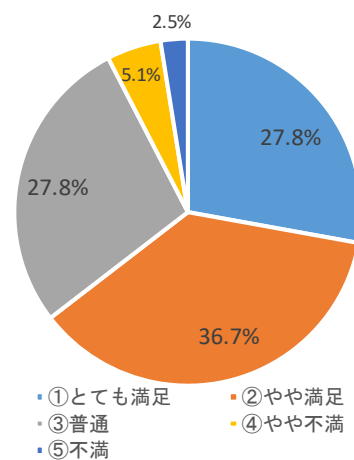
【これからの取組】

- どの方の講演も志に刺さりましたが、県外在住のキャンドルジュン様の熱い言葉に感動しました。



Q.本日のシンポジウムの感想をお聞かせください。(一部抜粋)

- 教育関係者として、学校においても復興や環境問題に取り組む必要性を感じることができた
- 双葉町長のご発言はすべて重みのあるもので、復興10年とこれからの10年を考える良い機会となりました。
- 身近に感じれていない福島の現状が少し分かった気がします。もっと知らなければいけないと強く感じました。
- オンラインであったが、場面の切り替えや流れがスムーズで見やすく、かつ聞き取りやすかった
- これから一緒に取り組んでいこうという姿勢がとても印象的でした。将来住みたい魅力的な街を実現していきたいです
- 内容が盛りだくさんでしたが要点がまとまっていて分かりやすかったこと。あまり予備知識なく参加したが、環境問題やSDGs取り組みについての世界の動き→国の施策→まちづくり→住民意識として受け入れるまでの流れを整理し理解できたと感じたから。
- シンポジウムの時間が短い気がした。
- 「地球温暖化対策」にしても「福島再生・未来志向」にしてもテーマが広く、シンポジウム自体の深まりに欠けてしまったから。しかし、パネリストの皆様の話された内容はとても興味深かったです。
- 講演によって幅広い知識を習得できたとともに、双葉町長の未来を見据えたまちづくりへの強い思いが印象的だったため。
- もう少し、具体的な取り組みも知りたかった。
- やはり意見交換というより発表が中心でした
- 質疑応答により多くの時間が割ければよかった。
- 基調講演やパネリストの方々の取り組み内容等を知ることができて良かった。
残念だった点としては、パネルディスカッションが順番に意見を述べるスタイルだったこともあり、ディスカッションにはなっていなかった(深い議論にならなかった)点です。
- 一般論ではなく、具体的なアクションが必要。



Q.シンポジウムの内容について意見（一部抜粋）

- 小さい会社の事業成功事例をご紹介してほしい。大企業の大規模な取り組みだと、まねできないことだと最初から思ってしまう。身近でビジネスとして成立しているケースに光を当ててほしい。
- 震災に加え原発事故を経験した福島なのに、原発事故への言及を避けているかの印象。2050カーボンニュートラルに向けて福島だからこそ言えるメッセージがあるのではないか。
- 亀山さんの基調講演が駆け足だったので、もっと時間があると良かったと感じました。パネルディスカッションのパネリストの皆様のお話が大変勉強になり、双葉町の伊澤町長の思いやならはみらいの牧ノ原さまのお話、キャンドルジュンさんのお話にはとても心を動かされました。いろんな考えの人々がいる中で、信念をもって活動を続けていらっしゃる、とても伝わりました。
- 私自身、子供時代を原子力発電一色の双葉町で過ごしたので、原子力発電所に代わる双葉町の基幹産業がどうなるのかは興味がありました。（もちろん「廃炉」産業も有力な候補だと思いますが）現在の双葉町が進める先駆的で目立つ町作りは、持続性もクリアできて賑わいを取り戻すことができれば素晴らしく面白い取り組みになると思います。環境問題で、インセンティブにより意識付けを行うことは、短期的には成果があっても、持続性に問題があるのではないのでしょうか。やはり、SDGsなどの「環境教育」を丁寧に行うことが有効なのではないかと思います。

Q.次回開催に向けた意見や要望（一部抜粋）

- パネルディスカッションの時間、もっと言うとパネラー同士のやり取りや質疑にもっと時間を割けるようにしてほしい
- 震災当時に小学生高学年や中学生の今を、御本人から様々な発表をしていたたくことで、今後の地域への希望が見出だすことができると思います。
- 他の自治体参加が加わったほうが望ましいのでは
- 中小企業の取組をもっと紹介してほしい。
- 都市住民に向けて、どのような支援があると、実現性が高まるか、あるいは早まるかなど、示唆して頂けたらと思います。
- 特に双葉郡の町村は、まだまだ個別に対応しており、広域的なグランドデザインのためのシンポジウムを見たい（広域的なまちづくり運営でもいいし、スマートシティでもいい、様々な視点での広域的な試みの方向を考えられるシンポジウムを開催してほしい）
- 若者の人材育成・高校教育の在り方（統廃合の問題含む）に特化した議論を福島県の教育委員会や企画調整課や福島大学、それに福島県知事（または副知事）も含めて議論できればと思います。フロアからの質疑応答や議論が深まるような時間配分をお願いいたします。
- 今後もリモート参加とともに、講演などはできればオンデマンドにいただけると幸いです。

Q.連携協定に今後期待すること（一部抜粋）

- 福島での環境取組を支援する具体的な補助制度の立案
- このような取り組み、情報発信を引き続きしていただけると嬉しい。
- 国の方針などと地域はぶつかり合うことが多いが、国は科学的根拠などの情報を上手く出しながら、理解醸成に努めていただきたい。
- 福島県が先進的取り組みの発信基地となる意義をさらにアピールしてください。
- コロナ禍後になるかもしれませんが、自然公園の魅力がアップし、多くの方が訪れることを期待しています（自分も行きたいと思います。）。
- 日本の英知を集めて、未来への希望を身近に福島県内のすべての子どもたちが感じられる環境整備をお願いしたい。幼児教育・小学校・中学校・高校・大学各レベルにおいて、福島県だけの特別標準カリキュラムとして、座学だけではなく、肌で感じ取る経験を与えてほしい。
- 地元の企業との連携を深めていただきたい。
- 他の都道府県、地域に転用できる成果につながるような運用方法
- 自治体や地域の縛りをなくして、本気で連携して浜通りを中心に福島県を盛り上げて欲しい。現状では各自治体それぞれがほぼ自分の自治体のことしか考えていないように思う。
- 福島県の為だけでなく、日本、世界のためになって欲しい。
- 福島県の復興と一口に言えるのか、復興の柱をしっかり示して、何を議論しているのか明確にしてほしい。
- 福島グリーン構想やポストコロナ社会の先取りには放射能に限らず有害物質や廃棄物の管理をどのようにしていくかが含まれると思うので、福島県の先進性として前面に出していくとよい。
- 多くの大学・企業・団体を巻き込んで、皆で双葉、大熊町を再生できるように政府には音頭を取って頂きたいです。
- 大熊双葉まちづくりミーティングなどでた構想・アイデアがアイデアの段階で終わらずに、実現に進むことができるように、国や自治体の後押しが必要。まちづくりミーティングのような会議は常に出口を見据えて行うべきと感じる。もし自治体が人材不足で苦しんでいる場合は、最もスピード感をもって解決するためには、国が支援すべきかと思う。
- 福島のご発展に、有機的に機能するようご期待を申し上げます。
- 現場の声を吸い上げて、現場では出来ないことを、実現してほしい。